

さくら第529号

令和 6年1月

さくら

発行所 さくらそろばん
発行者 平瀬重雄
春江町境 17-7: TEL51-1337
hirase@mx2.fctv.ne.jp

本気

なんでもいからず
本気でやれば
たのしみから
本気でやれば
つかれないうら
つかれないうら
つかれないうら
つかれないうら
さわかたから
みつき

『算数が好きと嫌いはどこから』

福井県珠算教育連合会で、学校支援そろばんボランティア授業をはじめ今年度で18年目となります。小学3年生と4年生の算数の授業のなかの「そろばん」を使つての計算方法を担任にかわつて指導しています。

初めてそろばんを手にする児童が大半であり授業は1クラスあたり1時間から4時間なのでそろばんの玉の動かし方、5になる数と10になる数、おつりの計算(補数)、小数第1位までの加減算のみの指導になります。

指導の合間をみて担任の先生に、そろばんを使つての「最大公約数」と「最小公倍数」の計算を説明すると、どなたも「エッ。こんなに簡単にできるとは!」、「もう一度やってみてください」、「そろばんっていろんな計算ができるんですね。知らなかった。子どもの時に習つておけば良かった」と異口同音に驚きます。

担任に必ず質問することがあります。それは「算数は好きとキライがはっきり分かれる教科だと思いますが、キライになる原因は何ですか」と訊けば、いろんな要因が出されます。

算数は積み重ね学習なのである学年での学習をおろそかにすると、6年生になつてもできない問題があります。コツコツと簡単な問題を根気よく解くことが大事と言われます。

そろばんと同じで、小さな成功体験をつみ重ねることで大きな目標が達成できますね。

算数はある時点で急に好きになつたり嫌いになることが多いのではと問えば、1年生の時点で数の概念のない子は次に進めにくくなり

ます。分ける、合わせて、違いはという言葉の意味がわからないと、加減乗除の区別ができない。聞く力がない子がいるとも言われます。

そこで私は、読書の時間が少ないとどうしても語彙が乏しくなるのと、しっかり聴けない子の親は、我が子の話をじっくり聞かないのではないのか、高学年の文章題では読解力が不十分だと答えの求める意味を理解できなく、計算式が立てられないのではと問えば、そうですと、うなづかれます。

担任は、1年生では数図ブロックを使うよりそろばんがいいかも知れないとも言われる。10の空間認識が難しい、算数のできない子は、1+9で10、2+8で10、4+6で10、5+5で10というように、直ぐにパツと浮かばないと嫌になり算数がキライになりすぐに諦める児童もいるようです。漢字も同じで、パツと浮かばないとやる気がうすれるようです。

くりあがり、繰り下りが1年生の時にできなくなると次へのステップに手間取り、2年生での九九では特に7の段が難しくよく間違ふようです。授業中に話を良く聞く子はできるが、最後まで聞かずに、すぐ分かったという児童は次の単元に進むともう理解できない。

3年のある教室では授業の開始と終わりに当番の児童が、何時何分ですと大きな声で言うが皆がすぐに復唱する。担任に問えば、時計の見方がわからない子がいる、長針と短針の間の空間認識が弱いと、あと何分で何時というパツと見ての判断が遅れるようです。

不器用な子が増えているとも言います。タブレット学習は個別指導にはよい点もあるが漢字学習には問題点があるとも指摘。答えの数は、大きくなるか小さくなるのかなどをパツと判断できないとそこから数を扱うことに抵抗感をもち数への苦手意識が増すようです。

私は、12月6日の三国西小学校から始まり、細呂木小、春江東小、雄島小、森田小、東十郷小、本荘小、金津東小の8校へ出向きました。3月6日の春江小まで続きますが、どのような授業を進められるかが楽しみです。

万両は 兎の眼もち 赤きかな

季語 万両

加賀千代女